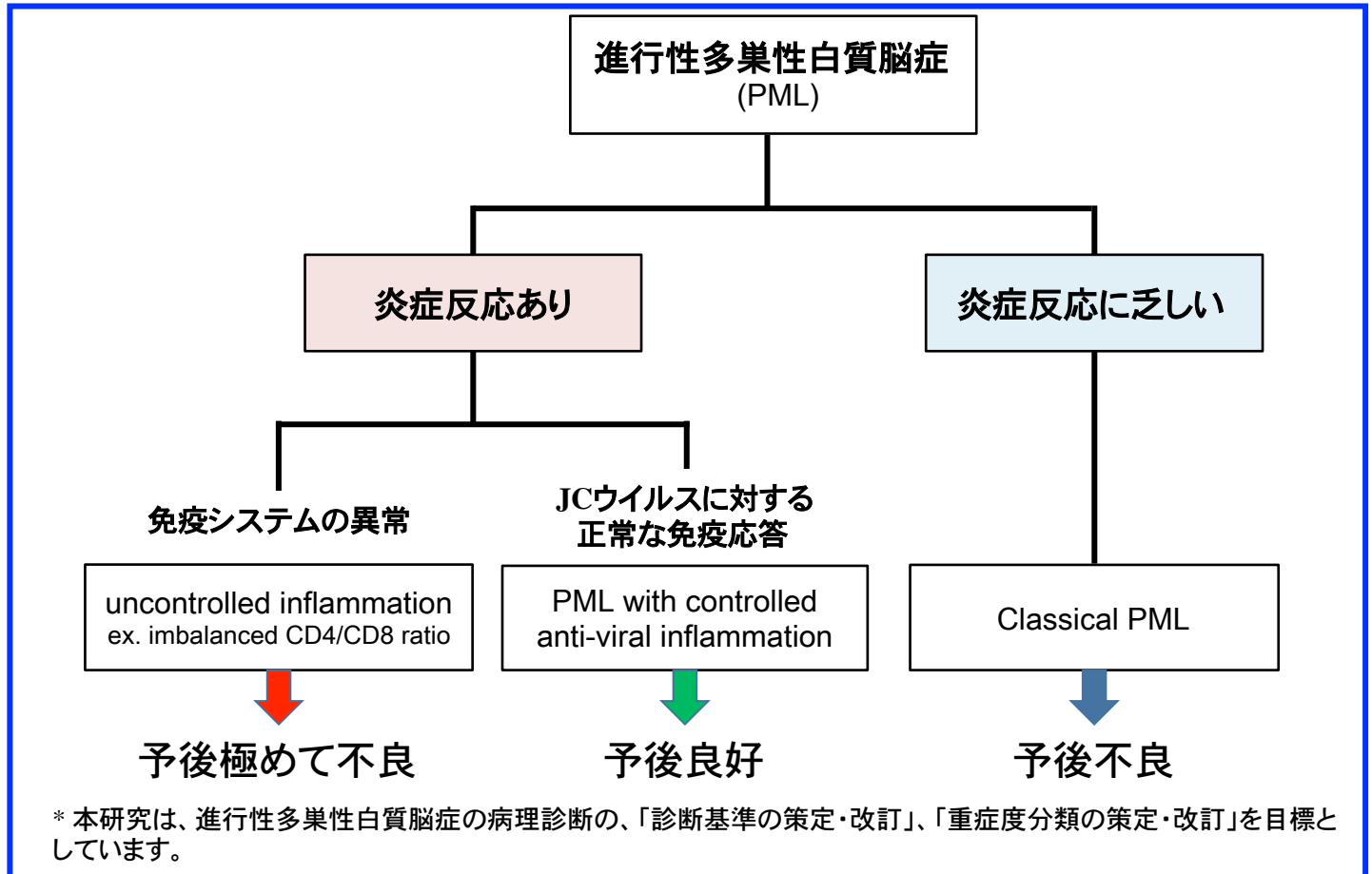


## Natalizumab時代の進行性多巣性白質脳症

研究分担者: 杏林大学医学部病理学教室 宍戸-原 由紀子



### 解説

1. 進行性多巣性白質脳症(PML)は、JCウイルスの再活性化による脱髄脳症で、免疫能の低下した宿主に発症する。
2. 典型的PMLは炎症反応に乏しく、予後不良であると知られてきた。
3. しかし、宿主の免疫能が保持され、JCウイルス特異的なCD4<sup>+</sup>, CD8<sup>+</sup> T細胞の反応を見る例があり、予後良好である。
4. 一方、HAART療法後のAIDS症例や、natalizumab投与を中止したMS症例では免疫再構築症候群にともなう予後極めて不良な炎症 (fatal PML-IRIS) を見る場合がある。
5. 「正常な免疫応答」と「免疫システムの異常」には、互いの混在や移行の可能性もあり、診断基準の策定は今後の課題である。